

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500057		
法人名	株式会社 ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームひょうご湊 (3F)		
所在地	神戸市兵庫区荒田町3丁目82-2		
自己評価作成日	平成23年1月24日	評価結果市町村受理日	2011年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共に暮らすことを基本としご利用者を知り、「その人らしさ」を出して頂けるよう心がけている。個別援助が中心となり、入居者様の満足を考え職員間で決めるのではなく必ずご入居者様にお聞きし、自己決定して頂いています。また、ご自身で出来ることはして頂き生活意欲や、自信に繋がるようにお手伝いしています。社会参加の支援や地域の中で関わりを持ち明るく笑いの耐えない(職員も一緒に楽しむ事)ホーム作りをしております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大倉山から有馬街道を山のほうに登ったところで、湊川の商店街にも近い便利なところに位置している。飲食店も多くあり、食材の買い物、カラオケ、夕食等出かけやすい環境である。利用者がどこへ行きたいか、何をしたいか等要望を言ってもらえる環境を作り、利用者の満足度を高めたいと、職員間で工夫している。出された要望に応えることで次の要望が出てくるので、職員は連携して対応できるよう心がけている。食事は献立、食材の買い物から調理、片付けまで利用者と共にやっている。外食にも出かける等食事を楽しめる支援を積極的に行っている。更なる前向きな検討として、施設やその他の課題について期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスなどで話し合う機会を作り、職員、管理者で理念を共有している。また、各ユニットに掲げいつでも確認できる環境もある。新入職員研修にも取り上げて話をしています。	法人の理念を事業所の理念としている。ミーティング等で共有を図り、名札の裏にも記載して常に確認出来るようにしている。利用者の自己決定を重視し、希望に応じて、カラオケ、居酒屋、近所の買い物等に個別対応もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	愛信学園との関りを常に持ち、イベントなどの交流を行なっている。地域のボランティアに来て頂いたり、地域の行事に参加させてもらっている。	近所の商店へ、買い物、外食等気軽に出かけている。町内会長から地域の情報をもらって催しに出かけることもある。近くの養護学校の生徒との交流が継続しており、利用者と一緒にホームでひと時を楽しんでいる。地域の方に感謝をこめて、認知症についての講演やお菓子バイキング等も企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度、感謝祭を開催し地域の方々に案内を出し大勢の方々が参加して下さった。また、年明けに餅つきをし、近隣に配るなど年の初めを一緒に祝っていただきました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通じて地域参加の案内、サービスの報告を行なっている。また、地域の方からの発信の場としても情報を提供して頂いている。	地域包括、町内会長、近隣代表、児童館館長、利用者家族が5~6名出席して定期的に開催している。地域包括よりイベントや地域の情報が提供され、自治会長から災害時の協力等の申し出もある。家族同士の話し合いも活発になされる等双方向の会議の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議ではあんしんすこやかセンターの職員が交互に参加され、GHの生活の様子を伝えたり、運営に関しての助言や、地域の情報の交換が出来る場所となっています。	運営推進会議の議事録を市へ持参している。顔の見える関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員研修では必須事項とし、現任職員では社内研修を行い、周知徹底し身体拘束排除に努めている。	研修を通して、身体拘束について正しく学ぶ機会を設けている。言葉の拘束もその都度注意して、一瞬、一瞬の関わりを大切にしている。日中、利用者が落ち着いている時は、フローアの鍵をかけるように努める等、鍵の弊害の軽減を図っている。	閉塞感を与えないよう工夫されているが、職員間の連携や地域の見守り等で施錠について再検討を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	新入職員研修では必須事項とし、現任職員では社内研修を行い、周知徹底し身体拘束排除に努めている。	職員間の協力や上司との話し合い等で、一人で抱え込まない配慮がなされている。休憩時間や有給を取る等、心身の負担軽減も図られている。身体拘束同様研修も行なわれ、職員の意識付けがなされている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、それを現場に伝えているが、現状活用に至らず。	職員は研修を受け知識を持ち、必要性も理解している。入居契約時等に家族への説明は行っていない。事業所では今後運営推進会議で、制度について説明したいと考えている。	資料等を準備して、制度活用について説明の場を持たれることを期待したい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明から契約に関しての内容以外に、グループホームの生活内容やご不安な点をお聞きし、その都度答えている。	入居前にまず見学してもらっている。契約時は事業所の「入居案内書」も活用し、具体例を出して説明している。説明の当日でなく、気持ちの整理をつけてもらってから契約に至る配慮もなされている。利用料金改定時等は家族会を開き説明、納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットへ設置しているがご家族の意見は常に職員や管理者に直接伝えていただけている。また、運営推進会議、家族会により現場主任、管理者への意見交換も行なっている。	家族会が毎月開催され、運営推進会議にも多数の家族が参加し、意見、要望を聞く機会が多くある。家族等の要望から、職員の顔写真と名前を書いてユニット毎に掲示したり、日常の利用者の様子を撮った写真を送り、生活ぶりが分かる工夫もなされている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	36協定にて職員代表を設置し、各事業所の職員の会社への意見を吸い上げ提出している。	各事業所の従業員代表がまとまって、母体会社に意見を言うシステムがあり、意見や提案を聞く機会が設けられている。事業所内でも職員の気付きから、夕方入浴を希望する利用者に対応する勤務時間の組み換え等も実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規事業にあたり、職員の意欲を確認し、ステップアップのチャンスを頂いている。また、役割分担により責任のある仕事を任せてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加し、研修の報告を行い、各現場に繋がるよう取り組んでいる。社内研修においては、研修報告書にて理解の把握を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議などに参加していただき意見交換の場となっている。新たに近隣のグループホームのご入居者様に周年行事にお越しいただくなど交流をもつように努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人に要望を聞き基本状況だけでなくわかりうる範囲でのアセスメントを取っている。また、日々の関りの内容をご本人に確認しながら行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談から入居当日に繋がるまで、同じ職員が出向きご家族との関わりを持つようになっている。また、数回の訪問により馴染みの顔になれるよう工夫している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当面の介護計画をたて情報が得られる内容での関り方を示すようになっている。暮らしの中で他のサービスの支援も視野に入れ努めている。電話連絡等話をする機会を作るよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『共に暮らす』ことを基本とし、職員とご利用者の関係を構築していく努力をしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の参加を促し、食事会や外出の支援、また日常の関りのなかでも御家族との関係を欠かさずことなく食事、お茶など一緒に過ごせる時間を作らせていただいている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係にある方にも連絡をとり、希望される事があれば一緒にいただき、関係の継続に努めています。	近くに住んでいた利用者が多く、友人、知人の訪問も度々ある。馴染みの喫茶店やラーメン屋、市場での買い物、自宅への外泊等もあり、事業所では馴染みの関係が途切れないよう協力している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が楽しく話をされている時は見守り、雰囲気壊さないように努めている。また、協力して家事や食事作りなどをして頂いている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となったご家族が行なっているお店などでの買い物を心がけている。また、退去後の居場所へ出向きお顔を見に行かせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「必ず本人にお聞きする」事を心がけている。一人ひとりと直接話し合い、アセスメントを行なっています。計画作成担当だけでなくスタッフ全員が思いを聴けるよう努めている。	利用者の心身状況を本人から聞き取って、シートにまとめている。聞き取れない場合は、家族に尋ねたり、場所、時間帯を考慮して、話しかけることを続けている。表情や動作、簡単な返事が返ってくるのでそれを参考に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中で入居前の暮らしについての記載箇所を設け、入居前、入居後とし情報の把握を行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に目で確認し、耳を傾け、スキップで体感し、一人ひとりの体調や気分にあった接し方を心がけ、ゆったりと穏やかな暮らしが出来るよう努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い状況に変化があれば本人、ご家族、職員で話し合い介護計画の作成に努めている。	計画作成者と担当職員が中心に会議で検討、往診医、看護師にも相談して、介護計画を作成している。利用者毎の個別の申し送りノートに職員の気づきを記録して、会議での見直し材料としている。計画書はまとめて綴じて、職員が随時確認できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアの実践結果を個別のケース記録に記入し特別な変化があれば職員間共有の個別情報ノートを用い情報の共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスと連携した行事や、Ghのイベントごとに合同で行なったり、デイケアへ行かれたり、訪問マッサージを受けられたりとGh内に留まらないサービスを行なっています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源を理解し、個別対応にてご本人の希望に沿うようにし、「その時」を逃さないよう努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力指定医による往診、月2回の訪問看護の巡回が行なわれている。従来のかかりつけ医の継続の際は定期受診にご家族が付き添う。	今までのかかりつけ医の受診、又は他科受診は家族が同行するが、代行もある。ホーム協力医は毎週往診で、往診日以外も柔軟な対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の訪問看護師により健康チェックや医療面との情報を交わし、相談を行なっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の訪問(見舞い)や、ご家族と医師との話し合いの場に同席させて頂き、退院までのご入居者、ご家族との関わりを持つようにしている。	利用者が入院した際、ホーム長は3日に1度は見舞いに行っている。早期退院に向けて、担当医、看護師との情報交換も密に行い、関係作りに努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してはご入居時に指針を説明し同意を得ている。また、御家族と医療関係者と交え、話し合う機会を必ず設けています。職員の不安感もあり、訪問看護師や、協力指定医への連絡を密にしながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや社内研修にて緊急対応の勉強会を行っている。外部の救急講習会にも職員が交互に参加し、再度認識を高めるよう努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、シュミレーションからご入居者へご協力頂き、全員避難を目指し取り組んでいる。近隣の協力要請など、運営推進会議を通し行なっている。	年2回消防署指導のもと、避難訓練を行っている。前もって職員が近隣に消火訓練をする事を伝えてから、消火訓練、避難訓練、通報訓練を自主訓練として行っている。	職員一人の夜間時を想定した訓練を試みてはいかがか。又災害に備えて、食料や飲料水を日ごろから準備しておくことも望みたい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は人生の大先輩であり、尊重し、尊厳を守れるよう、またプライバシーにも配慮した対応に努めている。	人生の先輩と常時心がけている。尊重とプライバシーの確保については呼び方、声かけの仕方など、職員間で統一した支援を心がけ、共有し、注意しあえる関係作りに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本として、ご入居者様にお聞きし、自己決定して頂く事を徹底している。希望は可能な限り添えるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てにおいてご入居者様の生活の時間にあわせ、ご本人にお聞きし、その日を過ごして頂いている。一人ひとりの時間を大切にしよう心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んで頂けるよう対応している。また、ご自分で選ぶことが困難な方でも目線をあわせ、お聞きする姿勢を忘れないように心掛けています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年までクックチルドの冷凍解凍を提供していたが、食事残が多く、ご入居者のお口に合わないことで全食手作りにての提供に変更した。食事量もアップし、ご入居者の好みに合ったものを提供できるようになった。	利用者に希望を聞き、H23.1月より職員が献立をたてている。ホーム近くの市場へ買物から、調理、片付けまでの一連の流れを共にすることによって、毎日の食生活を楽しみとするよう努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックやお茶の時間以外にも気分にあつた飲み物や、口が寂しい時などの果物などを速やかに提供できるよう取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩の口腔ケアや、食事が口の中に溜まりやすい方へは毎食の介助などを行なっている。また、訪問歯科による口腔内の状態の保持や個別対応を行っている。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意があり独歩で少量の失禁のある方のみりハビリパンツでの対応とし、ご自身で交換されるため、自尊心を欠くことの無い様支援している。	排泄記録により、個々のリズムを把握し、トイレに誘導している。又自立度の高い人は、自主性を尊重している。全介助の人にもトイレに座ってもらう等、排泄の自立に向けた支援をしている。誘導時はコミュニケーションを重視し、プライバシーへの配慮も心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を提供してみたり、ホットパックにより、腸の働きを良くするよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日希望の方は毎日の入浴、常に本人にお聞きしながら入浴して頂いています。こちらから声掛けずとも入りたいと仰って頂いている。また、仲の良い方同士2人で入られる事もある。	毎日希望時間を確認しての入浴で、基本的に2日に一度、1名は毎日入浴で、朝風呂も対応し、利用者仲良しの方は2人で入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化には常に気をつけ、その時に応じた対応をしている。食後にウトウトされる方は心地よい居眠りをして頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個々の薬について把握し、往診ドクターと相談しながら調整を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの日常を理解し、日々の暮らしの満足度を高められるよう関り方を考えてその方の役割や楽しみを持てるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って買い物や外出など行なっている。また、散歩や、ちょっとしたお出かけもご家族に連絡し、楽しみを共有できる環境を作っています。	近くの公園や買物に良く出かけている。たこやきを食へに出かけたり、家族を誘って王子動物園や花見で、須磨方面に出かけている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理についてはご本人が持つ事により安心される場合はお持ちいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望通りに努めている。フロア内の電話を使って頂いたり、ご自身で携帯電話を持たれる方もいらっしゃいます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるよう四季折々の花や、季節行事の張り紙また、イベントがあった後に写真を現像し、フロアで見えていただけるようにしています。また、刺激のあるものでなく、心地の良いものにし居心地を確認している。	ホームは2階と3階であり、明るい光がさし込んでいる。共用空間を大切に、季節の花が飾られ、落ち着いた雰囲気となっている。畳のコーナーでは洗濯物を整理したり、職員とお茶を飲んだり、又利用者同士がくつろげる場所としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアや、畳の間、ソファなどのスペースを活用し、工夫しながら配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内については馴染みの物などを置いています。また、ご本人が必要であれば居室内に冷蔵庫なども持ち込まれている。別室に大勢のご家族が来られた時など用の家族控え室もある。	居室内は馴染みの物の持ち込みが出来る。食器も各自の物を使っていて、入居後も必要な物があれば家族に持って来てもらう等の協力を得ているので居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者がいかに援助なしで、生活できるかを考え、環境を作る努力をしている。(トイレの張り紙等)		